

第2 事業の概要

1 法人運営

(1) 私立学校法の一部を改正する法律等の施行（令和2年4月1日）に伴う対応について

- ア 学校法人盛岡大学寄附行為の変更ほか、関連規程の整備を行った。
- イ 学校法人盛岡大学中期計画（令和元年度～令和5年度）を策定した。
- ウ 学校法人盛岡大学ガバナンス・コードを制定した。
- エ 学校法人盛岡大学監事監査基準を制定した。

(2) 学校法人盛岡大学第3次中期経営計画（平成30年度～平成33年度）」の推進について

第3次中期経営計画の2年目となる令和元年度において、計画の目標実現のために次の7つの重点項目の達成に向けて、積極的に取り組んだ。

- ①教育目標を達成するために入学定員を確保し、収容定員充足率の維持・向上を図る。
- ②施設設備の整備を進め、教育環境の充実を図る。
- ③経営基盤を強化する。
- ④各学校の将来構想について検討する。
- ⑤「対話のある学校」の実践を進める。
- ⑥組織運営、管理体制の整備を進めるとともに、コンプライアンスの徹底を図る。
- ⑦高大連携の強化を図るとともに、高大接続改革に備える。

(3) 学校法人盛岡大学中期計画（令和元年度～令和5年度）」の策定について

私立学校法の改正に伴い、現行の学校法人盛岡大学第3次中期経営計画（平成30年度～平成33年度）」を精査、見直しを行い、「教学」、「人事」、「施設」、「財務」においての次の4つの目標と、8つの重点項目を定めて新たな中期計画に再編成した。

<目標>

- ①教育研究活動の改善及び質の向上
- ②業務運営の効率化を目的とした事務組織・人事体制の見直し
- ③施設設備整備計画による環境の整備
- ④財務内容の改善による経営基盤の強化

<重点項目>

- ①教育研究活動の改善及び質の向上を図る。
- ②組織運営、管理体制を整備し、ガバナンス機能の改善・強化を図る。
- ③人事体制の整備を進め適正化を図る。
- ④施設設備の整備を進め、教育研究環境の充実を図る。
- ⑤財政基盤の安定化を図る。
- ⑥設置校の将来構想について検討する。
- ⑦法人内の各学校間の連携を強化する。
- ⑧法人及び盛岡大学の周年事業を実施する。

(4) 組織改編について

盛岡大学・盛岡大学短期大学部の組織を次のとおり改編した。

- ・情報システムセンターを設置（令和元年11月1日）
- ・教員養成サポートセンター内に「教職課程課」と「教職支援対策課」を設置（令和元年11月1日）
- ・令和2年4月1日より、入試・広報センターを「入試センター」に改編、「広報戦略本部」及び「広報戦略室」の設置することを決定

(5) 令和元年度学生・生徒・園児数について

法人全体での学生・生徒・園児の総数は2,694人であり、収容定員2,500人を194人上回った。ただし、学部別で見ると盛岡大学栄養科学部21人減、盛岡大学短期大学部85人減、盛岡大学附属松園幼稚園30人減と収容定員を下回った。

(6) 財政健全化への取り組みについて

「学校法人盛岡大学第3次中期経営計画（平成30年度～平成33年度）」及び学校法人盛岡大学中期計画（令和元年度～令和5年度）」の重点項目「経営基盤の強化、安定化」について、引き続き財政の健全化へ向けて取り組んだ。（財務状況の詳細については、P27「第3財務の概要」参照）

(7) 既存施設の改修・整備等について

- ア 砂込キャンパスにおいて、エアコン用受電設備増設工事と未整備だった14教室のエアコン設置工事を行った。
- イ 大学A306、大学A311、短大B313の3教室のコンピューター教室の設備更新を行った。
- ウ 全施設において、補修・補強工事を行い教育環境の維持に努めた。

(8) SD研修の実施について

法人の基本理念や情報、課題等の共有を図るため教職員研修会（年2回）、メンタルヘルスをテーマとしたSD研修会を行った。

(9) 東日本大震災に関連する措置等について

- ア 東日本大震災で被災した受けた学生・生徒・園児に対し、令和元年度は29名に授業料等学納金の減免措置を実施した。
- イ 平成23年度から実施した東日本大震災被災学生・生徒等の減免対象者は延べ504名、減免額は210,489千円となった。
- ウ 令和2年度入学生からの減免措置は実施しないことを理事会で決定した。

(10) 新型コロナウイルス感染症の拡大防止に向けた対応について

学校法人盛岡大学危機管理規程に基づき危機管理本部会議を設置し、新型コロナウイルス感染症の拡大防止に向けた基本方針の策定など感染症対策を行った。

2 設置する各学校の運営

(1) 盛岡大学

◆文学部

英語文化学科

【定員充足力】

平成31年の英語文化学科への入学者数は61名で定員を辛くも充たす厳しい状況であった。しかし、令和2年度4月の入学者数は71名となり、様々な好条件はあったものの、結果としては入試・広報センターが設定する「受け入れ目標値」を上回る好結果を達成することができた。

- (1) 平成31年2月及び令和2年2月、2年連続でマルタ語学研修を計画・実践
- (2) 令和元年の「春の高校訪問」で過去最高の26校の訪問を計画・実践
- (3) 高校訪問用の独自学科広告資料を作成・配布
- (4) 学長裁量経費による助成金を利用して5回の英語セミナー「MU Talks」を企画・開催
- (5) 令和元年9月17日に盛岡大学附属高校への出前講義を実践

【教育改革力】

教育の質の向上を目指し、以下6点の教育実践を行った。

- (1) TOEIC受験の促進と授業内外での対策講座の実施と学生指導
- (2) TOEIC受験者のデータ収集と分析
- (3) TOEIC Bridge 及び TOEFL-iBT などの各種試験のアーブメントテスト及び教材における導入
- (4) マルタ語学研修での学生の学業パフォーマンスについてのデータ収集
- (5) 教員採用試験に対する各種対策講座の企画と実践
- (6) 学長裁量経費による助成金を利用して英語セミナー「MU Talks」を企画・開催

日本文学科

【教育改革力】

古文・漢文の基礎学力が不十分な学生について、日本語学演習（古典語）Ⅰと漢文基礎演習の授業でそれぞれの基礎学力の向上を図り、各演習科目でプレゼンテーション力の強化を図った。

【学修支援力】

各クラス担任や卒論指導教員が学生との対話を意識して指導し、留年率18.7%と前年比では若干向上した。

社会文化学科

【教育改革力】

グループワーク、プレゼンテーションなどを通じて、自己認識力を高めた。
履修方法の見直し、基礎ゼミについて検討を行った。

児童教育学科

【定員充足力】

- (1) 計画のとおり令和2年度入学生カリキュラムに「社会人コミュニケーションⅠ・Ⅱ（3年前・後期）」を設置した。

(2) レクリエーション・インストラクターおよびスポーツ・レクリエーション指導者の養成課程について認定を得ることができた。

(3) コミュニケーション力の要素である「チームワーク」「共感的理解」「アサーション」の各尺度を作成した。

【教育改革力】

(1) 令和2年1月11日（土）にスクーリングを実施し、教員・在学生による学科紹介、課題学習のための環境整備等を行った。

【地域貢献と情報発信力】

(1) 岩手県私立幼稚園・認定こども園連合会からの要請に基づき、二種免取得者の一種免許状への上進のための講習を開設することが議決され、開設科目・担当者の決定などと併せて、文科省へ補助金申請をすること等、所要の準備を行った。

(2) 児童教育コース学生が岩手県スクールトライアル事業に38名（延べ47名、延べ93回）、滝沢市ラーニング・サポーター・プロジェクト（LSP：教育拠点校実習）に128名（延べ564回）、その他教育ボランティアに147名（延べ223名）が参加した。また、保育・幼児教育コース学生が附属幼稚園における拠点園実習に24名（延べ32名）が参加した。

(3) 児童・生徒の学び舎プロジェクト「レッツゴー！冬の2020モリンピック」（2月9日）の企画・運営を学生主体で行い、小学生25名、保護者2名、学生33名、教職員9名、計69名が参加した。

【学修支援力】

(1) 教員養成サポートセンターの協力を得て、1年次（4月20日（土）：133名）、2年次（4月2日（火）：134名）対象の基礎学力診断テストと結果のフィードバックを行った。

(2) 前期・後期の2回、教採対策特別講座が開催された。教職教養・小学校全科は、一般英語・小学校理科を除き、児教教員14名が1～6コマ開講した。

◆栄養科学部

【教育改革力】

学科会議を通して教育改善に関する情報を共有した。

【定員充足力】

(1) 定員を満たす学生募集の方法を検討した。

(2) 入学後の基礎科目の成績を踏まえ入学前教育のあり方を見直した。

(3) 入試制度（附属高推薦枠拡大等）を検討した。

【教育改革力】

(1) 管理栄養士教育課程の構成の見直しを検討した。

(2) 栄養科学部栄養科学科の特長を協議した。

(3) 管理栄養士養成課程の学びの整理のための科目の設置を行った。

(4) 管理栄養士国家試験サポート体制の見直しを行った。

【学修支援力】

(1) 学修技術・意欲向上教育ならびに基本的・専門的知識定着教育を検討した。

(2) 令和3年度開設に向けた学修支援場所及び環境整備の準備を検討した。

(3) 修学指導の実施を検討した。

(4) 実習室等の備品設備の教育環境を充実させた。

(2) 短期大学部

【入学定員の確保】

- (1) 法人に対し、入学定員の変更を上申した。
- (2) 短期大学が専門学校より、幼稚園免許、保育士資格取得において教育内容の質等の違いについてアピールし、定員に近づける検討を行った。

【特色ある教育活動の充実】

- (1) 各ゼミの充実を図った。卒業発表を「もりたん劇場」と改称し一般公開を始めた。
- (2) 「絵本のおくりもの」という新しい公開講座を実施した。

【学生の基礎学力及び学習意欲の向上】

保育士模擬試験、漢字テストなど就職センターと協力して実施した。

【短期大学部将来構想の検討】

- (1) 定員について学長に上申し、法人での検討に入った。
- (2) 学生募集に貢献できる事業を引き続き検討し、また、学生の教育の質を向上させる方策についても引き続き検討していく。

【キャリア教育及び就職支援活動の強化推進】

就職先の細かな状況を把握し、一人一人の適性に合った職場と結び付けを行った。

(3) 学生部

【教育改革力】

- (1) 主体的学修への転換の一つ目として、「アクティブ・ラーニング」を取り入れた授業を全学的に促進した。
- (2) 主体的学修への転換の二つ目として、「学生に講義等のための事前事後学修を促す授業」を促進した。
- (3) 主体的学修への転換の三つ目として「ICTの活用による授業」を促進した。
- (4) 主体的学修への転換の促進状況とその効果を検証するため、学生アンケートにより「学生の授業関連学修時間の調査（学修時間と読書量）」を年1回実施し、教育課程編成に関する全学的な方針の策定の検討に活用した。
- (5) 学修成果の把握・可視化の取り組みを推進するため、達成度自己評価システムなどを利用して学生の理解を図った。

【学修支援力】

- (1) 経済的支援体制（「給付型授業料減免制度」「盛岡大学奨学会貸与奨学金」「経済支援入試特待生制度」等）について、経済的事情により修学が困難な学生が支援を受けられるよう見直しを図った。
- (2) 令和2年度から始まる「修学支援新制度」を専門に扱う部署を立ち上げ対応を図った。
- (3) 教職員が連携した学修支援体制の一つとして、WEBポータルシステムを有効活用した。
- (4) 学生生活安定のための取り組みを行った。
 - ・ 中途退学防止への取組
 - ・ 奨学金、表彰制度の充実
 - ・ 学友会、部活・サークル活動活性化の支援
 - ・ ボランティア活動の支援 他

(4) 就職センター

【学修支援力】

・就職率

大学 文学部 97.5% 栄養科学部 100%

短大部 幼児教育科 100%

上記就職率については、センター職員及び教員そしてハローワークの方の協力を得ながら、活動中の学生から就活状況を聞き、不安や心配に思っていることを解消しながら支援を行った。就職内定状況収集については、卒業式の中止によりセンター職員により電話での内定情報収集や又教員の協力を得ながら就職内定情報収集を行った。

- ・「インターンシップ」の単位化の決定
- ・現行のインターンシップ（三大学連携）と企業主催のインターンシップ参加の呼びかけをセンター内で直接又は支援講座で行った。
- ・公務員合格者数 23名
- ・センター主催の講座を受講して合格した合格率 47.8%
- ・新型コロナ感染拡大防止のため、本学合同企業説明会は、中止となった。
- ・企業学内説明会については、先入観やイメージだけで判断しないように、企業と直に接して仕事の内容を理解させることとした。
- ・個別相談を強化して、学生と企業のコーディネートを図り、参加につなげることにした。
- ・企業の採用時期が早まっていることから、訪問時期を早め、それに伴い持参する資料(求人のための学校案内)も早めに作成し、事業所訪問を強化していくこととした。

(5) 入試・広報センター

【定員充足力】

〔盛岡大学〕

令和元年度に実施した入学試験の結果、令和2年度の入学者数は、文学部 367人(前年度 360人；定員 320名)、栄養科学部栄養科学科 71人(前年度 85人；定員 80名)となった。文学部の学科・コース別の入学者数は、英語文化学科 71人(前年度 61人；定員 60名)、日本文学科 75人(前年度 74人；定員 60名)、社会文化学科 66人(前年度 86人；定員 60名)、また、児童教育学科の入学者は、児童教育コース 114人(前年度 96人；定員 100名)、保育・幼児教育コース 41人(前年度 43人；定員 40名)であった。文学部においては、全学科とも定員よりも多く入学者を受け入れた。また、栄養科学部栄養科学科では、定員を充足することができなかった。

また、編入学試験(前期・後期)により、10名(英語文化学科 2名(前年度 2名)、日本文学科 1名(前年度 0名)、社会文化学科 1名(前年度 1名)、児童教育学科 6名(前年度 2名))、栄養科学科 5名(前年度 1名)の編入学生を受け入れることとなった。

〔盛岡大学短期大学部〕

今年度実施した各種入学試験は、入試種別毎の入学者はAO入試(エントリー者数 26人；前年 21人)、一般推薦入試一般推薦(志願者数 49人；前年 50人)、特別推薦入試一般推薦(志願者数 15人；前年 21人)、自己推薦入試前期・後期(4人；前年 2人)、一般入試前期・後期(12人；前年 26人)、社会人特別選抜入試前期・後期

(1人；前年0人)であった。

入学状況は、平成28年度152名の定員数充足を最後に、平成29年度126名、平成30年度108名、令和元年度107名と定員未充足が続き令和2年度入試では3桁を切り99名の入学者となり4年連続の定員割れとなった。

入学者選抜における主な変更点は、自己推薦入学試験後期及び一般入学試験後期の試験日程の変更を行った。

短大部幼児教育科定員割れの原因は、令和2年度の全入試種別の志願者108名であり定員150名を大きく下回っていることが最大の原因である。定員数の見直しも含め、更なる対策を今後検討していかなければならない。

【地域貢献と情報発信力】

入試に関する広報活動は、オープンキャンパス、高校訪問および各種説明会への参加を核とし、志願者の多い北東北地域を重点地域とした募集活動を行ってきた。今年度も高校生(受験生)にとってより身近な存在である学生広報スタッフを活用し、母校訪問(休暇中に出身高校を訪問し、近況報告をするとともにパンフレット等資料を渡してもらう)や、オープンキャンパスでの案内や、大学見学での学校生活紹介を行ってもらった。

新規事業では、保護者対象進学相談説明会を開催(49名が参加)。

オープンキャンパス来場者数・資料請求等のアクセス者数等全て増加し志願者数増に繋がったことから概ね達成できた。

(6) 図書館

【学修支援力】

図書館ラーニングコモنزの強化による自学学習空間の構築と運用環境の整備、オープンサイエンスに係る学術情報基盤の整備を行った。

1 施設設備の整備を進め、教育環境の充実を図った。(新規)

多目的学習室及び貸出用パソコンについて、OS等のサポートが終了となることから機器本体等は購入したが、システム構築等は予算の関係上、令和2年度に実施することとなった。

2 図書館利用の活性化を図った。(継続)

本館において、講義、演習、図書館利用講座等の情報リテラシー教育が実施されている。多目的学習室、ラーニング・コモنزを使用して、教職協働のもと教員、館員が相互に連携し学生への教育を行った。

図書館業務においても、雑誌等についても各学科の意見を聴取して見直しを図り、新元号「令和」に関わる展示など月替わりで展示コーナーを設けて、図書館ウェブサイトと掲示を通じて常に情報を利用者へ発信した。

学生選書ツアー等の学生サポーター活動はなかったものの、図書館カウンター業務のアルバイトが継続して行われてた。

3 機関リポジトリの充実を図り、円滑な運用に努めた。(継続)

リポジトリの閲覧及びダウンロード数ともに年々増加し、リポジトリへの関心がうかがえる。他方、登録コンテンツの収集が課題となっている。

【組織マネジメント力】

大学図書館としての地域に根ざした事業を推進した。(継続)

本学大学祭の図書館企画として定着した「宝さがしゲーム」「古本市」を開催する予定であったが、台風 19 号の影響により中止した。全国大学ビブリオバトル地区予選については、開催を延期して後日実施した。

(7) 地域連携センター

【地域貢献と情報発信力】

- 1 盛岡市
 - ・盛岡市立病院並びに栄養科学部連携事業（市民講座）の開催
 - ・石川啄木記念館ワークショップ支援
- 2 滝沢市
 - ・滝沢市議会フォーラム、滝沢市議会市民議会U 2 2 への学生派遣
 - ・滝沢市健康応援フェスタに教員・学生の派遣
- 3 陸前高田市
 - ・陸前高田市連携事業市民公開講座の開催
- 4 岩手山青少年交流の家
 - ・スポーツによる青少年育成活動の共同事業の開催（施設利用）
- 5 民間団体
 - ・J Aいわて中央との共同事業開発研究
 - ・盛岡大学・同短期大学部研究者名簿の作成
 - ・いわて高等教育コンソーシアムにおける地域研究推進委員会の開催を行い、今後の地域研究課題の掘り起こしと継続可能事業の再検討
 - ・ふるさといわて創造協議会への参画
 - ・行政団体への各種委員会に教員を派遣
- 6 学生部並びに教員養成サポートセンターを通じて県内の各種団体に対しボランティア等の派遣
 - ・ラグビーワールドカップ釜石大会
 - ・いわて盛岡シティマラソン ほか
- 7 公開講座等の開催
 - ・小学校英語に関する特別公開講座を実施
 - ・J Aいわて中央レディースセミナーへの講師派遣
 - ・盛岡市立病院における市民講座への講師派遣（前掲）
 - ・短期大学部「子ども発達支援講座」の開催
 - ・第 39 回の大学公開講座を開催
 - ・短期大学部公開講座の開催
 - ・短期大学部「もりたん劇場」開催支援

(8) 教員養成サポートセンター

【学習支援力】

- ・学内教員による教員採用試験対策特別講座実施。
- ・相談員による教員採用試験対策講座実施。

- ・外部講師による教員採用試験対策直前ガイダンス及び採択講座実施。
- ・教職ガイダンス、教員採用試験対策模擬試験、個別相談指導の強化及び教員になった卒業生との交流会実施。

【組織マネジメント力】

- ・私大協等関係機関の動向を注視し、本学の自己評価システムの方向性を検討した。
- ・令和元年度私立大学教職課程協会等の動向を注視するとともに、他大学の動向を調査・研究を行った。

(9) 盛岡大学附属高等学校

ア 入学者の定員確保について

志願者数は、下記のとおり大幅に減少し、3年前の水準に戻った。入学者は153人で、定員の150人を上回った。

	27年度	28年度	29年度	30年度	31(元)年度
推薦志願者	112	105	107	137	127
一般志願者	406	322	636	594	275
入学者	172	161	235	182	153

イ 教育課程の改善を検討し実施する

教育系進学コースの入学希望者が少ない場合には進学コースに組み入れるという計画であったが、21名の希望者が確保できたため、例年通りのコース編成とした。その後コース変更者もあり、現在は23名が在籍している。進学コースでは野球部単独クラス(47名)を作ったため多少のアンバランスが生じたが、3クラスを維持した。

ウ 新学習指導要領に対応した教育改善の検討を進める

- ①コースの見直しとともに、「総合的な探究の時間」について議論を重ねた。現在、教育系進学コースで実施している「子ども学」、「教育事始め」等をアレンジし、探究として、「体験」、「課題設定」、「研究・調査」、「プレゼンテーション」を通してポートフォリオの作成について検討をすすめている。
- ②カリキュラム・マネジメントの一環として、「我々が目指す生徒像」と「本校の探究の在り方」という2つのテーマで校内研修会を実施した。

エ 高大連携を充実させるとともに、高大接続改革に備える

- ①年2回(7月と3月)の連携に関する協議会を開催した。教育系大学進学コースへの授業(子ども学、教育事始め)については、児童教育学科の教員から高校側が大学へ丸投げではなく、事前ガイダンス、事後の成果のまとめ、成績評価に高校の教員も入ること等主体的な対応を求められ改善を図った。
- ②入試状況については、3年生の在籍者数が多いことから、大学の附属高校推薦枠について柔軟な対応をお願いし、大学に38名(A02、附属校推薦29、一般推薦7)(昨年21名)、短期大学部7名(昨年同数)合格となり、大学については大幅な増となった。最終的には一般受験を含め大学に44名、短期大学部に7名、計51

名が入学した（昨年 28 名）。本校からの大学、短期大学部入学生に対する入学金の減免について承認されたことも入学者増への後押しとなった。

オ 留学制度等特色ある教育活動に取り組む

- ①本校の留学制度について、来年度以降は特色から外す方向で検討に入ることとした。
- ②本校の特色としての野球・柔道などの部活動の強化は図られている。野球は、甲子園大会出場をあと一步のところまで逃した(秋季東北大会第3位、センバツ補欠校)、柔道部は、団体・個人2名がインターハイに、さらに団体・個人2名が全国選手権大会の出場権を獲得した。残念ながらコロナウイルス感染拡大のため大会は中止となった。陸上長距離では盛岡市内一周継走及び一関盛岡間駅伝競走で、ともに2位という好成績を収めた。
- ③さんさ同好会が盛岡さんさ踊りに学校として3年連続出場し、地域社会に貢献する取り組みをした。ダンス部や、音楽部、吹奏楽部なども、地域の各企画にボランティアとして参加した。吹奏楽部は盛岡大学との合同演奏会を昨年引き続き実現した。

カ コンプライアンスの徹底を図る。

- ①コンプライアンス遵守に係る職員研修として、毎月の定例職員会議の席で規範意識の向上を図る講話を行った。
- ②職員が悩みや不安材料を一人で抱え込むことのないように、何でも相談し合える職場の雰囲気づくりに配慮し、年度始めと12月にかけて年2回の全職員の個別面談を実施し、一人ひとりの勤務状況、心身の状況の把握に努めた。

キ 施設設備の改善を検討する。

- ①シューズロッカー室の床・ドア及び通路の修理、駐車場のアスファルトの修理など計画に挙げた改善はどれも実行されなかった。冷房化については、来年度以降、整備を進めることとなった。
- ②文部科学省所管のGIGAスクール構想（補助事業）への参入によるICT環境の整備について上申した。

(10) 盛岡大学附属厨川幼稚園

ア 入園児の確保に努める

- ①令和元年度の在園児数は89名で、定員75人を上回った。
- ②未就園児サークル登録者54名中、28名が入園につながった。
- ③イメージキャラクターを園児募集要項、未就園児チラシ、入園のしおり、さんさ踊りうちわ等に使用し、園児募集に活用し、PRを図った。
- ④預かり保育専任教員及び満3歳児補助教員を配置した。

イ 特別支援を要する子どもへの柔軟に対応する

- ①園務分掌にて特別支援教育担当を配置した。
- ②自閉症園児に専任教員を加配した。

③短期大学部と共同で特別支援教育研修会を開催した。

ウ 教育の質の向上を図る

- ①処遇改善キャリアアップ研修に参加した。
- ②厨川幼稚園教育課程を策定した。
- ③公開保育研究会を開催し、参加者を交えて幼稚園の保育やその後の小学校生活について、協議を行った。

エ 施設の環境整備を図る

- ①年長組の床修繕を行った。
- ②預かり保育のエアコンは更新されたが、暖房設備は未更新であった。

オ 施設給付型移行に伴い、公定価格加算の対象となる事業を検討する

チーム保育加算対象の教員配置、処遇改善加算につながる園務分掌配置などの検討を職員間で行った。

(11) 盛岡大学附属松園幼稚園

ア 入園児の確保に努める

- ①令和元年度の在園児数は54名で、定員75人を下回った。
- ②今年度より、0歳児～2歳児対象の子育て広場「まんまくらぶ」を行った。
- ③松園地域に実家のある方が、海外や他県から一時帰省の際のお子様の一時預かりを行った。
- ④特色ある事業であるラクビー教室、ジョイキッズ（英語教室）を行った。

イ 教育の資質向上を図る

- ①園外研修では、盛岡地区の研修会、幼稚園では一人一人の子どもの姿から育ちを見通し教師の在り方について自園での園内研修を行った。
- ②第34回東北地区大会青森県大会において、これまでの園内研修をまとめたポスター発表を行い自己研鑽に努めた。
- ③特別な支援について、盛岡大学の教員とともに月に一度ケースカンファレンスを行い、個別支援計画を作成した。
- ④園児2名に対して保育所等訪問事業（盛岡市からの補助事業を受けた個人事業所）の提供を受け、様々な専門家の視点で子どもを見ることによりその子の理解が深まり、よりよい教師の援助を行うことができた。

ウ 附属幼稚園の今後の在り方を検討する

他の保育園、認定こども園とは違う、子育て支援の場、放課後の学童支援、老人大学、特別支援等、大学・短大との連携を行いながら幼児教育とほかの機能も兼ね備えた多機能型の施設として、地域に根差した在り方などについて検討を行った。

エ 高校、短大、大学との連携を深める

- ①学園祭（おひさままつり）では、子どもたちの作品展示と盛岡大学生の授業の一環として参加する取り組みを行った。
- ②実習生や地域の中学生の職場体験等実地教育の場として開放し、指導を行った。
- ③幼児体操、特別支援に関して、大学の専門の教員の方々の指導のもと研修を行い教育の質の向上に努めた。
- ④短期大学部「もりたん劇場」の観劇体験では、色彩や音色の多彩さや物語の面白さに触れる新しい体験ができた。

オ 園舎内外の環境整備を図る

- ①大型積み木の修繕と塗装を保護者有志により行った。
- ②新型コロナウイルス感染症対策によりいつも以上に清掃消毒を行った。
- ③毎週、遊具の安全点検、補修を行った。
- ④床の補修、冷暖房設備の整備が課題である。

3 役員会等の開催状況

(1) 理事会

開催月日	議 事 内 容
4月18日 (1回目)	①理事の選任について②監事候補者の選出について③評議員の選任について④評議員の推せんについて
4月18日 (2回目)	①評議員の意見を参考に理事長が監事を選任することについて②学校法人盛岡大学役員・評議員報酬規程の一部改正について③教育環境の整備・奨学金制度の拡充寄付金を特定資産とすることについて④理事長の選任にかかる理事会の開催について
4月18日 (3回目)	①理事長の選任について②常務理事の選任について③理事長職務代理の順位について④学校法人盛岡大学顧問の選任について
5月28日 (1回目)	①平成30年度事業実績報告書及び決算について
5月28日 (2回目)	①盛岡大学学則の一部改正について②盛岡大学短期大学部学則の一部改正について③日本私立大学協会評議員の選定について④学校法人盛岡大学役員・評議員報酬規程の一部改正について
6月27日	①職員の懲戒処分等について②盛岡大学経済困窮者向け給付型授業料減免規程の一部改正について
7月25日	①盛岡大学短期大学部学則の一部改正について②盛岡大学附属厨川幼稚園及び松園幼稚園園則の一部改正について③令和2年度以降の東日本大震災被災学生・生徒等の授業料等減免対応について④被災学生・生徒等を対象とする授業料等減免措置に伴う寄付金募集について⑤盛岡大学客員教授の委嘱について⑥投資信託による資産運用を行うことについて⑦令和元年7月1日付懲戒処分について
9月26日	①盛岡大学栄養科学部教育職員の採用について
10月24日	①令和2年度学校法人盛岡大学事業計画の骨子及び予算編成方針について②盛岡大学・盛岡大学短期大学部のPC教室関連システム一式更新に係る物品売買契約の締結について③盛岡大学・盛岡大学短期大学部の組織を改編することについて
11月28日	①学校法人盛岡大学寄附行為の一部変更について②盛岡大学附属高等学校からの盛岡大学及び盛岡大学短期大学部入学生に対する入学金の減免及び学生納付金等の納入に関する規程の制定について③盛岡大学学則の一部改正について④盛岡大学短期大学部学則の一部改正について⑤令和2年度の盛岡大学附属高等学校生徒納付金の額について⑥盛岡大学附属高等学校学則の一部改正について⑦令和元年度予算の第1次補正について⑧学校法人盛岡大学資産運用基準及び基準外運用の手続き等に関する規程の一部改正について⑨盛岡大学文学部教育職員の採用について
12月19日	①任期満了に伴う学校長の選任について②盛岡大学文学部教育職員の採用について
1月30日	①盛岡大学附属高等学校学則の一部改正について②盛岡大学附属幼稚園園則の一部改正について③学校法人盛岡大学ガバナンス・コードの制定について④盛岡大学栄養科学部長の選任について⑤学校法人盛岡大学監事監査規程の一部改正について⑥学校法人盛岡大学監事監査基準の制定について⑦学校法人盛岡大学役員・評議員報酬規程及び学校法人盛岡大学役員退職慰労金支給規程の一部改正について⑧盛岡大学文学部教育職員の教授昇格者の決定について⑨盛岡大学附属高等学校の専任教育職員の採用について
2月27日	①学校法人盛岡大学中期計画の策定について②盛岡大学学則の一部改正について③盛岡大学文学部長の選任について④盛岡大学客員教授の任期更新について⑤令和元年度盛岡大学附属高等学校奨学金予算額の増額について

3月24日 (1回目)	①理事の選任について②評議員の選任について③評議員の推せんについて
3月24日 (2回目)	①第2号基本金の組入れ計画の変更について②令和元年度予算の第2次補正について③令和2年度事業計画及び予算について④学校法人盛岡大学就業規則の一部改正について⑤役員賠償責任保険への加入について⑥盛岡大学附属幼稚園の専任教育職員の採用について

(2) 評議員会

開催月日	議 事 内 容
4月18日	①評議員の選任について②理事の選任について③監事の選任にあたり評議員の同意を求めることについて
5月28日	①平成30年度事業実績報告及び決算の報告について②盛岡大学学則の一部改正について③盛岡大学短期大学部学則の一部改正について
7月25日	①盛岡大学短期大学部学則の一部改正について②盛岡大学附属厨川幼稚園及び松園幼稚園園則の一部改正について③令和2年度以降の東日本大震災被災学生・生徒等の授業料減免対応について④被災学生・生徒等を対象とする授業料減免措置に伴う寄付金募集について
11月28日	①学校法人盛岡大学寄附行為の一部変更について②盛岡大学附属高等学校からの盛岡大学及び盛岡大学短期大学部入学生に対する入学金の減免について③盛岡大学学則の一部改正について④盛岡大学短期大学部学則の一部改正について⑤令和2年度の盛岡大学附属高等学校生徒納付金の額について⑥盛岡大学附属高等学校学則の一部改正について⑦令和元年度予算の第1次補正について
1月30日	①盛岡大学附属高等学校学則の一部改正について②盛岡大学附属幼稚園園則の一部改正について③学校法人盛岡大学ガバナンス・コードの制定について④学校法人盛岡大学役員・評議員報酬規程に関し意見を聴くことについて⑤学校法人盛岡大学役員退職慰労金支給規程に関し意見を聴くことについて⑥学校法人盛岡大学役員・評議員報酬規程及び学校法人盛岡大学役員退職慰労金支給規程の一部改正について
2月27日	①学校法人盛岡大学中期計画の策定について②盛岡大学学則の一部改正について③盛岡大学名誉教授の称号を授与することについて
3月24日	①評議員の選任について②第2号基本金の組入れ計画の変更について③令和元年度予算の第2次補正について④令和2年度事業計画及び予算について⑤盛岡大学名誉教授の称号を授与することについて⑥役員賠償責任保険への加入について

(3) 常勤理事による案件審査会議

理事会議題及び同報告事項を纏め上げるための予備討議を行い、コンセンサスを図っている。今年度は20回開催した。

4 監査の実施状況

- (1) 令和元年度の監査報告書は下記のとおりである。
- (2) 監事2名のうち、1名は週4日出勤し常勤監査体制を高めている。
- (3) 例月の監査の実施状況は以下のとおりである。
 - ア 理事会及び評議員会には原則として毎回2名出席し業務の執行状況を監査している。また、案件審査会議についても後日、協議資料をもとに開催状況を監査している。
 - イ 財務状況に関する監査の充実という観点から、監査法人監査には常勤監事が立会いしている。
 - ウ 日常は、現預金・重要保管物等の実査及び公印管理状況をはじめ、各種コンプライアンスの遵守状況等について監査を実施し、業務の改善を促している。
 - エ 決算監査は関係法令、学校法人会計基準、寄附行為に基づいて行っている。

令和2年5月20日

学校法人盛岡大学
理事会 御中
評議員会 御中

学校法人盛岡大学

監事 阿部 勉



監事 八重樫 広樹



監 査 報 告 書

私たちは、学校法人盛岡大学の監事として、私立学校法第37条第3項および学校法人盛岡大学寄附行為第15条第1項第1号から同第3号に定める職務を次により行いましたので、同第4号により本報告書を提出します。

1. 監査の方法及びその内容

法人の業務については、監事監査規程の基準に準拠し、理事、内部監査室、その他の職員等と意思疎通を図り、情報の収集および監査の環境整備に努めるとともに、理事会等の重要な会議に出席し、理事、職員等からその職務の執行状況についての報告を聴取しました。

また、重要な決裁書類を閲覧し、業務の妥当性を検討しました。さらに学校法人から財務状況の報告および説明を受け、計算書類および財産の状況を監査したほか、公認会計士の会計監査の都度立会いし、その監査結果の報告を受け計算書類の妥当性を検討しました。

2. 監査の結果

上記による監査の結果、本法人の令和2年3月31日現在の計算書類は、学校法人会計基準に準拠して経営状況および財政状態を適正に表示していること、並びに同日の財産の状況は別添財産目録記載のとおり適正に表示していることを認めます。

また、本法人の業務または財産に関し、私立学校法第37条第3項第5号に定める文部科学大臣または理事会および評議員会に報告すべき不正の行為または法令若しくは寄附行為に違反する重大な事実はないものと認めます。

以 上

5 主な行事等

平成31年	4月1日	辞令交付式
	4月3日	盛岡大学及び盛岡大学短期大学部入学式
	4月8日	附属高等学校入学式
	4月13日	附属厨川幼稚園入園式
	4月13日	附属松園幼稚園入園式
令和元年	5月16日	大学・短期大学部火災避難訓練
	6月21日	大学・短期大学部地震避難訓練
	6月15日	創立記念日礼拝（68周年）（於細川泰子記念礼拝堂）
	8月6日	上期職員研修会
	8月13日～16日	夏期休暇
	12月23日	下期職員研修会
	12月29日～1月3日	年末年始休暇
令和2年		
	3月4日	SD研修会
	3月24日	退職辞令交付式